



市外への積極的な情報発信について

創志会 宇田川 希

問 新聞などでも取り上げられましたが、下今泉の国道246号の上り側道「えび〜にや看板」は、非常に良いPRだと思えます。国土交通省の横浜国道工事事務所と連携して、空き缶やゴミ捨ての多かった場所を改良し、「ポイ捨て防止」と「海老名市への定住促進」の双方をうまく表現した看板が設置されました。

今回のような効果的なPR、また、それとともに市内在住・在勤に限定せず、市外の方々を海老名市への定住に導くためには市の事業やイベントなどにおいて市外の方も対象に入れるべきと考えております。

そこで、今回の国道246号の側道のように市外の方に對して更なるPRを進めていく考えはあるのかを伺います。また、健康マラソンなど、市の魅力を体験できるイベントに、市外の方も呼び込む考えはあるのかを伺います。

答（市長）：看板の設置後、市民からは、定住促進にもつながるよい取り組みであるという意見が寄せられ、想像以上に好評であったと思います。今後も、市外の方を呼び込む取り組みとして、国道や高速道路から見える公共施設の壁面などを利用し、効果的なPRを検討してまいりたいと考えております。

答（市民協働部次長）：市外の方がスポーツイベントに参加することで、より多くの方に海老名市を知っていただく機会となり、PRにつながると考えております。今後のイベント運営については、安全面を十分に考慮するとともに、市外を含めた多くの方々に参加いただき、市の情報発信につながるよう努めてまいります。

その他の質問

・さがみ野駅周辺のまちづくりについて



市道8号線の整備について

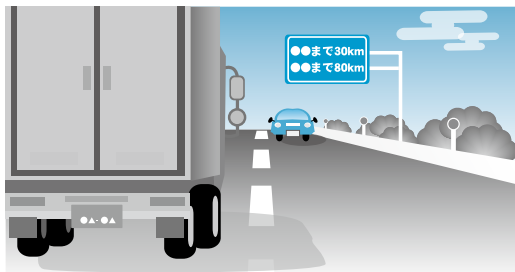
公明党 福地 茂

問 平成23年に南伸道路が開通したことにより、市道8号線も車両の通行量が増えているように感じます。また、市道8号線と県道22号の交差点はクラック形状になっており、スムーズな通行を妨げているのが現状です。近年、この交差点の近隣には大型物流拠点やホームセンター、大型スーパーが進出し、買い物の車や物流のトラックなど多くの車両が通過しております。そのため、交差点改良は混雑緩和の有効な手段であると認識しています。

さらに、市道8号線には車道が狭い箇所もあります。特に、JAさがみ有馬支店付近は狭くなっています。そこで、この市道8号線の改良工事について、現在の進捗と今後のスケジュールをお聞かせください。

答（建設部長）：市道8号線は、県道43号藤沢厚木以南の約1・8キロメートルの区間で、拡幅による線形改良と歩道整備工事に取り組んでいます。中河内地区では約130メートルの区間で西側の歩道整備が完了しています。また、本郷地区では今年8月末までに、約300メートルの区間の歩道整備が完了する予定です。

ご指摘のJAさがみ有馬支店の付近は、見通しが悪いことは認識しています。この区間については、昨年度に境界確認などを実施し基礎資料を作成しました。本年度は、この基礎資料に基づき道路線形の検討と用地交渉に向けて調整を図っていく予定です。今後の計画としては、引き続き沿線の測量および用地交渉を進め、用地協力が得られたところから順次整備を進めます。



多様な生き方を支える 環境の整備について

いちごの会 西田 ひろみ

問 「ともに認め合うまち・海老名宣言」は多様な生き方を認め合い、共生社会を目指しています。

生活困窮者自立支援制度への市の取り組みについて伺いますが、生活保護の手前で自立を支援する生活困窮者自立支援事業は、生活保護の窓口で対応し、スタートして2年間の実績は17人と少ない状況です。

本市の生活保護率は2016年4月現在、千人に10・25人と県の平均12・52人より低いので、生活困窮者も少ないと捉えることができます。しかし、この制度の就労準備支援にあたるユニバーサル就労支援（就労したくても就労できない人の相談から自立の支援）をしている市内の社会福祉法人では、3年間で40人の海老名市民の相談に対応しています。また、引きこもりは40代、50代が多くなっていると言われています。社会とのつながりが薄れ、市の相談窓口に来所できない潜在的困窮者がいると想定できます。この事業の広報と他機関との連携について、市の見解を伺います。

答（保健福祉部長）：ホームページのほか、オリジナルの案内チラシを公共施設、地域包括支援センター、ハローワーク、民生委員などに配布し、周知を図っています。関係機関と密接な連携を図っており、医療費や税の未納者へ相談窓口を案内するよう周知しています。各事業所から生活困窮が疑われる場合には、通報が入る連絡体制も構築しています。

その他の質問

・生きづらさを抱えた若者への支援について
・就労継続のための育児・介護休業・病児保育について

